

事故防止運動など講演

梅田運輸倉庫 中央安全衛生会議

梅田運輸倉庫（井上眞吾社長、大阪市福島区）は7日、中央安全衛生会議を開催。全国の営業所などから約60人が参加した。同会議は年3回開催されている。

同社オリジナルのストレッチ体操で会議はスタートした。第1部では、福島警察署交通課長の松本広明氏が、12月からの道路交通法改正による運転中のスマホ使用に関する罰則強化や、年末の交通

事故防止運動などについて講演。また交通安全DVD「衝突！安全への過信」が上映され、交差点の安全な通過方法などを学んだ。

第2部では、ヘルスケアネットワーク（OCHIS）の作本貞子副理事長が「健康意識への更なる取り組みに向けて」をテーマに講演。同社は10月に健康宣言を行い、現在、健康経営優良法人の申請中であること



同認定制度

のメリットや、健康意識改革などを説明した。「健康診断でイエローカードをもらっている人は、そのままにするので

はなく、歩く習慣をつくるなどして、生活習慣改善の取り組みを行っていた。話した。作本副理事長は、半日人間ドックの受診や禁煙への取り組みなども勧めた。会議では

令和2年度の安全標語の入選作品が発表されたほか、新しい安全スローガン「健康 安全 意識を高め 声かけ 挨拶 自分から」も発表され、全員で唱和した。井上社長は最後に「今年も安全活動に

取り組んでいただいたが、課題も多い。抜本的に教育の制度を変えなければ、事故は減らない。配送業務中に様々なリスクがある中、1人ひとりがしっかり安全ルールを順守し、来年以降は支部や営業

所の安全を会社としてより強化していくことを考えていく。今年も残りわずかだが事故ゼロで、来年は年始からゼロを更新できるよう活動をお願いしたい」と述べた。

（木村麻理奈）